

設計業務等共通仕様書

令和6年4月

独立行政法人水資源機構

目 次

第1章 総 則	1
第1節 適 用	1
第2節 用語の適用	1
第3節 受発注者の義務	3
第4節 業務の着手	3
第5節 設計図書の支給及び点検	3
第6節 調査職員	3
第7節 管理技術者	4
第8節 照査技術者及び照査の実施	4
第9節 担当技術者	4
第10節 提出書類	5
第11節 打合せ等	5
第12節 業務計画書	5
第13節 資料の貸与及び返却	6
第14節 関係官公庁等への手続き等	6
第15節 地元関係者との交渉	6
第16節 土地への立入り等	7
第17節 成果物の提出	7
第18節 関連法令及び条例の遵守	7
第19節 検 査	8
第20節 修 補	8
第21節 条件変更等	8
第22節 契約変更	8
第23節 履行期間の変更	9
第24節 一時中止	9
第25節 発注者の賠償責任	9
第26節 受注者の賠償責任等	10
第27節 部分使用	10
第28節 下請負	10
第29節 成果物の使用等	10
第30節 守秘義務	11
第31節 個人情報への取扱い	11
第32節 安全等の確保	12
第33節 臨機の措置	13
第34節 履行報告	13
第35節 屋外で作業を行う時期及び時間の変更	13
第36節 情報流出防止対策の強化	13
第37節 支給品及び貸与品等	14
第38節 暴力団員等による不当介入を受けた場合の措置	15
第39節 保険加入の義務	15
第2章 設計業務等一般	16
第1節 使用する技術基準等	16
第2節 現地踏査	16

第3節	設計業務等の種類	16
第4節	調査業務の内容	16
第5節	計画業務の内容	16
第6節	設計業務の内容	16
第7節	調査業務の条件	17
第8節	計画業務の条件	17
第9節	設計業務の条件	17
第10節	調査業務及び計画業務の成果	18
第11節	設計業務の成果	19
第12節	環境配慮の条件	19
＜参考資料＞主要技術基準及び参考図書		20

第1章 総 則

第1節 適 用

1. 設計業務等共通仕様書（以下「共通仕様書」という。）は、独立行政法人水資源機構（以下「機構」という。）の発注する土木工事、機械設備工事に係る設計及び計画業務（当該設計及び計画業務と一体として請負契約される場合の土木工事予定地等において行われる調査業務を含む。）に係る契約書及び設計図書の内容について、統一的な解釈及び運用を図るとともに、その他の必要な事項を定め、もって契約の適正な履行の確保を図るためのものである。
2. 設計図書は、相互に補完し合うものとし、そのいずれかによって定められている事項は、契約の履行を拘束するものとする。
3. 特記仕様書、図面、共通仕様書又は指示や協議等の間に相違がある場合、又は図面からの読み取りと図面に書かれた数字が相違する場合など業務の遂行に支障を生じたり、今後相違することが想定される場合、受注者は調査職員に確認して指示を受けなければならない。
4. 測量調査等業務等に関する業務については、別に定める各共通仕様書によるものとする。

第2節 用語の適用

共通仕様書に使用する用語の定義は、次の各項に定めるところによる。

1. 「発注者」とは、契約職又は分任契約職をいう。
2. 「受注者」とは、設計業務等の実施に関し、発注者と請負契約を締結した個人若しくは会社その他の法人をいう。又は、法令の規定により認められたその一般承継人をいう。
3. 「調査職員」とは、契約図書に定められた範囲内において、受注者又は管理技術者に対する指示、承諾又は協議等の職務を行う者で、契約書第9条第1項に規程する者であり、統括調査員、主任調査員及び調査員を総称していう。
4. 本仕様で規定されている統括調査員とは、統括調査業務を担当し、主に、受注者に対する指示、承諾または協議、および関連業務との調整のうち重要なものの処理を行う者をいう。

また、設計図書の変更、一時中止または契約の解除の必要があると認める場合における契約職又は分任契約職に対する報告等を行うとともに、主任調査員及び調査員の指揮監督並びに調査業務のとりまとめを行う者をいう。

5. 本仕様で規定されている主任調査員とは、主任調査業務を担当し、主に、受注者に対する指示、承諾または協議（重要なものおよび軽易なものを除く）の処理、業務の進捗状況の確認、設計図書の記載内容と履行内容との照合その他契約の履行状況の調査で重要なものの処理、関連業務との調整（重要なものを除く）の処理を行う者をいう。

また、設計図書の変更、一時中止または契約の解除の必要があると認める場合における統括調査員への報告を行うとともに、調査員の指揮監督並びに主任調査業務および一般調査業務のとりまとめを行う者をいう。

6. 本仕様で規定されている調査員とは、一般調査業務を担当し、主に、受注者に対する指示、承諾または協議で軽易なものの処理、業務の進捗状況の確認、設計図書の記載内容と履行内容との照合その他契約の履行状況の調査（重要なものを除く）を行う者をいう。また、設計図書の変更、一時中止または契約の解除の必要があると認める場合における主任調査員への報告を行うとともに、一般調査業務のとりまとめを行う

- 者をいう。
7. 「検査員」とは、設計業務等の完了検査及び指定部分に係る検査にあたって、契約書第 31 条第 2 項の規定に基づき、検査を行う者をいう。
 8. 「管理技術者」とは、契約の履行に関し、業務の管理及び統括等を行う者で、契約書第 10 条第 1 項の規定に基づき、受注者が定めた者をいう。
 9. 「照査技術者」とは、成果物の内容について技術上の照査を行う者で、契約書第 11 条第 1 項の規定に基づき、受注者が定めた者をいう。
 10. 「担当技術者」とは、管理技術者のもとで業務を担当する者で、受注者が定めた者をいう。
 11. 「同等の能力と経験を有する技術者」とは、当該設計業務等に関する技術上の知識を有する者で、特記仕様書で規定する者又は発注者が承諾した者をいう。
 12. 「契約図書」とは、契約書及び設計図書をいう。
 13. 「契約書」とは、「設計業務等請負契約書」をいう。
 14. 「設計図書」とは、仕様書、図面、数量総括表、現場説明書及び現場説明に対する質問解答書をいう。
 15. 「仕様書」とは、共通仕様書及び特記仕様書（これらにおいて明記されている適用すべき諸基準を含む。）を総称していう。
 16. 「共通仕様書」とは、各設計業務等に共通する技術上の指示事項等を定める図書をいう。
 17. 「特記仕様書」とは、共通仕様書を補足し、当該設計業務等の実施に関する明細又は特別な事項を定める図書をいう。
 18. 「数量統括表」とは、設計業務等に関する工種、設計数量および規格を示した書類をいう。
 19. 「現場説明書」とは、設計業務等の入札等に参加する者に対して、発注者が当該設計業務等の契約条件を説明するための書類をいう。
 20. 「質問回答書」とは、質問受付時に入札等参加者からの質問書に対して、発注者が回答する書面をいう。
 21. 「図面」とは、入札等に際して発注者が交付した図面及び発注者から変更又は追加された図面及び図面のもとになる計算書等をいう。
 22. 「指示」とは、調査職員が受注者に対し、設計業務等の遂行上必要な事項について書面をもって示し、実施させることをいう。
 23. 「請求」とは、発注者又は受注者が契約内容の履行あるいは変更に関して相手方に書面をもって行為、あるいは同意を求めることをいう。
 24. 「通知」とは、発注者若しくは調査職員が受注者に対し、又は受注者が発注者若しくは調査職員に対し、設計業務等に関する事項について、書面をもって知らせることをいう。
 25. 「報告」とは、受注者が調査職員に対し、設計業務等の遂行に係わる事項について、書面をもって知らせることをいう。
 26. 「申し出」とは、受注者が契約内容の履行あるいは変更に関し、発注者に対して書面をもって同意を求めることをいう。
 27. 「承諾」とは、受注者が調査職員に対し、書面で申し出た設計業務等の遂行上必要な事項について、調査職員が書面により業務上の行為に同意することをいう。
 28. 「質問」とは、不明な点に関して書面をもって問うことをいう
 29. 「回答」とは、質問に対して書面をもって答えることをいう
 30. 「協議」とは、書面により契約図書の協議事項について、発注者又は調査職員と受注者が対等の立場で合議することをいう。
 31. 「提出」とは、調査職員が受注者に対し、又は受注者が調査職員に対し設計業務等

に係わる事項について書面又はその他の資料を説明し、差し出すことをいう。

32. 「連絡」とは、調査職員と受注者の間で、契約書第 18 条に該当しない事項または緊急で伝達すべき事項について、口頭、ファクシミリ、電子メールなどにより互いに知らせることをいう。なお、後日書面による連絡内容の伝達は不要とする。
33. 「電子納品」とは、電子成果品を納品することをいう。
34. 「情報共有システム」とは、調査職員及び受注者の間の情報を電子的に交換・共有することにより業務効率化を実現するシステムのことをいう。なお、本システムを用いて作成及び提出等を行ったものについては、別途紙に出力して提出しないものとする。
35. 「書面」とは、発行年月日を記録し、記名（署名または押印を含む）したものを有効とする。ただし、情報共有システムを用いて作成し、指示、請求、通知、報告、申出、承諾、質問、回答、協議、提出、提示する場合は、記名がなくても有効とする。
36. 「照査」とは、受注者が、発注条件、設計の考え方、構造細目等の確認及び計算書等の検算等の成果の確認をすることをいう。
37. 「検査」とは、契約図書に基づき、検査員が設計業務等の完了を確認することをいう。
38. 「打ち合わせ」とは、設計業務等を適正かつ円滑に実施するために管理技術者等と調査職員が面談により、業務の方針及び条件等の疑義を正すことをいう。
39. 「修補」とは、発注者が検査時に受注者の負担に帰すべき理由による不良箇所を発見した場合に受注者が行うべき訂正、補足その他の措置をいう。
40. 「協力者」とは、受注者が設計業務等の遂行にあたって、下請負に付する者をいう。
41. 「使用人等」とは、協力者又はその代理人若しくは使用人その他これに準ずるものをいう。
42. 「了解」とは、契約図書に基づき、調査職員が受注者に指示した処理内容・回答に対して、理解して承認することをいう。
43. 「受理」とは、契約図書に基づき、受注者、調査職員が相互に提出された書面を受け取り、内容を把握することをいう。

第 3 節 受発注者の義務

1. 受注者は契約の履行に当たって業務等の意図及び目的を十分理解したうえで業務等に適用すべき諸基準に適合し、所定の成果を満足するような技術を十分に発揮しなければならない。
2. 受注者及び発注者は、業務の履行に必要な条件等について相互に確認し、円滑な業務の履行に努めなければならない。
3. 受注者は、設計業務等の適正な実施のために必要な技術的能力の向上、情報通信技術を活用した設計業務等の実施の効率化等による生産性の向上並びに技術者の育成及び確保並びにこれらの者に係る賃金、労働時間その他の労働条件、安全衛生その他の労働環境の改善に努めなければならない。

第 4 節 業務の着手

受注者は、特記仕様書に定めがある場合を除き、契約締結後 15 日以内に設計業務等に着手しなければならない。この場合において、着手とは管理技術者が設計業務等の実施のため調査職員との打合せを行うことをいう。

第 5 節 設計図書の支給及び点検

1. 受注者から要求があった場合で、調査職員が必要と認めたときは、受注者に図面の原図若しくは電子データを貸与する。

ただし、共通仕様書、各種基準、参考図書等市販されているものについては、受注者の負担において備えるものとする。

2. 受注者は、設計図書の内容を十分点検し、疑義のある場合は、調査職員に書面により報告し、その指示を受けなければならない。
3. 調査職員は、必要と認めるときは、受注者に対し、図面又は詳細図面等を追加支給するものとする。

第6節 調査職員

1. 発注者は、設計業務等における調査職員を定め、受注者に通知するものとする。
2. 調査職員は、契約図書に定められた事項の範囲内において、指示、承諾、協議等の職務を行うものとする。
3. 契約書の規定に基づく調査職員の権限は、契約書第9条第2項に規定した事項である。
4. 調査職員がその権限を行使するときは、書面により行うものとする。
ただし、緊急を要する場合、調査職員が受注者に対し口頭による指示等を行った場合には、受注者はその口頭による指示等に従うものとする。
なお調査職員は、その口頭による指示等を行った後、後日書面で受注者に指示するものとする。

第7節 管理技術者

1. 受注者は、設計業務等における管理技術者を定め、発注者に通知するものとする。
2. 管理技術者は、契約図書等に基づき、業務の技術上の管理を行うものとする。
3. 管理技術者は、設計業務等の履行にあたり、技術士（総合技術監理部門（業務に該当する選択科目）又は業務に該当する部門）、農業土木技術管理士又はこれと同等の能力と経験を有する技術者、あるいはシビルコンサルティングマネージャ（以下「RCCM」という。）の資格保有者であり、日本語に堪能（日本語通訳が確保できれば可）でなければならない。
4. 管理技術者に委任できる権限は契約書第10条第2項に規定した事項とする。
ただし、受注者が管理技術者に委任できる権限を制限する場合は発注者に書面をもって報告しない限り、管理技術者は受注者の一切の権限（契約書第10条第2項の規定により行使できないとされた権限を除く）を有するものとされ発注者及び調査職員は管理技術者に対して指示等を行えば足りるものとする。
5. 管理技術者は、調査職員が指示する関連のある設計業務等の受注者と十分に協議の上、相互に協力し、業務を実施しなければならない。
6. 管理技術者は、第1章第8節第4項に規定する照査結果の確認を行わなければならない。
7. 管理技術者は、原則として変更できない。ただし、死亡、傷病、退職、出産、育児、介護等やむをえない理由により変更を行う場合には、同等以上の技術者とするものとし、受注者は発注者の承諾を得なければならない。

第8節 照査技術者及び照査の実施

1. 発注者が設計図書において定める場合は、受注者は、設計業務等における照査技術者を定め発注者に通知するものとする。
2. 照査技術者は、技術士（総合技術監理部門（業務に該当する選択科目）又は業務に該当する部門）、農業土木管理士又はこれと同等の能力と経験を有する技術者あるいはRCCMの資格保有者であり、特記仕様書に定める業務経験を有しなければならない。

3. 照査技術者は、照査計画を作成し業務計画書に記載し、照査に関する事項を定めなければならない。
4. 照査技術者は、設計図書に定める又は調査職員の指示する業務の節目毎にその成果の確認を行うとともに、成果の内容については、受注者の責において照査技術者自身による照査を行わなければならない。
5. 照査技術者は、特記仕様書に定める照査報告毎に照査結果を照査報告書としてとりまとめ、照査技術者の責において署名捺印のうえ管理技術者に提出するとともに、報告完了時には全体の照査報告書としてとりまとめるものとする。

第9節 担当技術者

1. 受注者は、業務の実施にあたって担当技術者を定める場合は、その氏名その他必要な事項を調査職員に提出するものとする。（管理技術者と兼務するものを除く）
なお、担当技術者が複数にわたる場合は適切な人数とし、8名までとする。
2. 担当技術者は、設計図書等に基づき、適正に業務を実施しなければならない。
3. 担当技術者は照査技術者を兼ねることはできない。

第10節 提出書類

1. 受注者は、発注者が指定した様式により、契約締結後に関係書類を調査職員を経て、発注者に遅滞なく提出しなければならない。
ただし、契約金額に係る請求書、代理受領承諾願、遅延利息請求書、調査職員に関する措置請求に係る書類及びその他現場説明の際に指定した書類を除く。
2. 受注者が発注者に提出する書類で様式が定められていないものは、受注者において様式を定め、提出するものとする。
ただし、発注者がその様式を指示した場合は、これに従わなければならない。
3. 受注者は、契約時又は変更時において、契約金額が100万円以上の業務について、業務実績情報システム（以下「テクリス」という。）に基づき、受注・変更・完了・訂正時に業務実績情報として作成した「登録のための確認のお願い」をテクリスから調査職員にメール送信し、調査職員の確認を受けた上で、受注時は契約締結後、15日（休日等を除く）以内に、登録内容の変更時は変更があった日から、15日（休日等を除く）以内に、完了時は業務完了後、15日（休日等を除く）以内に、訂正時は適宜、登録機関に登録申請しなければならない。なお、登録できる技術者は、業務計画書に示した技術者とする（担当技術者の登録は8名までとする）。
また、受注者は、契約時において、予定価格が1,000万円を超える競争入札により調達される建設コンサルタント業務において調査基準価格を下回る金額で落札した場合、テクリスに業務実績情報を登録する際は、「低価格入札である」にチェックをしたうえで、「登録のための確認のお願い」を作成し、調査職員の確認を受けること。また、登録機関発行の「登録内容確認書」はテクリス登録時に調査職員にメール送信される。なお、変更時と完了時の間が、15日間（休日等を除く）に満たない場合は、変更時の登録申請を省略できるものとする。
また、本業務の完了後において訂正または削除する場合においても同様に、テクリスから発注者にメール送信し、速やかに発注者の確認を受けた上で、登録機関に登録申請しなければならない。

第11節 打合せ等

1. 設計業務等を適正かつ円滑に実施するため、管理技術者と調査職員は常に密接な連絡をとり、業務の方針及び条件等の疑義を正すものとし、その内容についてはその都

度受注者が書面（打合せ記録簿）に記録し、相互に確認しなければならない。

なお、連絡は積極的に電子メール等を活用し、電子メールで確認した内容については、必要に応じて打合せ記録簿を作成するものとする。

2. 設計業務等着手時及び設計図書で定める業務の区切りにおいて、管理技術者と調査職員は打合せを行うものとし、その結果について受注者が打合せ記録簿に記録し相互に確認しなければならない。
3. 管理技術者は、仕様書に定めのない事項について疑義が生じた場合は、速やかに調査職員と協議するものとする。
4. 打合せの想定回数は、特記仕様書又は数量総括表による。
5. 調査職員及び受注者は、「ワンデーレスポンス」※に努める。※ワンデーレスポンスとは、問合せ等に対して、1日あるいは適切な期限までに対応することをいう。

なお、1日での対応が困難な場合などは、いつまでに対応するかを連絡するなど、速やかに何らかの対応をすることをいう。

第12節 業務計画書

1. 受注者は、契約締結後15日以内に業務計画書を作成し、調査職員に提出しなければならない。
2. 業務計画書には、契約図書に基づき下記事項を記載するものとする。
 - (1) 業務概要
 - (2) 実施方針
 - (3) 業務工程
 - (4) 業務組織計画
 - (5) 打合せ計画
 - (6) 成果品の品質を確保するための計画
 - (7) 成果品の内容、部数
 - (8) 使用する主な図書及び基準
 - (9) 連絡体制（緊急時含む）
 - (10) 使用する主な機器
 - (11) その他

なお、受注者は設計図書において照査技術者による照査が定められている場合は、照査計画について記載するものとする。

3. 受注者は、業務計画書の重要な内容を変更する場合は、理由を明確にしたうえで、その都度調査職員に変更業務計画書を提出しなければならない。
4. 調査職員が指示した事項については、受注者はさらに詳細な業務計画に係る資料を提出しなければならない。

第13節 資料の貸与及び返却

1. 調査職員は、設計図書に定める図書及びその他関係資料を、受注者に貸与するものとする。
2. 受注者は、貸与された図書及び関係資料等の必要がなくなった場合はただちに調査職員に返却するものとする。
3. 受注者は、貸与された図書及びその他関係資料を丁寧に扱い、損傷してはならない。万一、損傷した場合には、受注者の責任と費用負担において修復するものとする。
4. 受注者は、設計図書に定める守秘義務が求められる資料については複製してはならない。

第14節 関係官公庁への手続き等

1. 受注者は、設計業務等の実施に当たっては、発注者が行う関係官公庁等への手続きの際に協力しなければならない。また受注者は、設計業務等を実施するため、関係官公庁等に対する諸手続きが必要な場合は、速やかに行うものとする。
2. 受注者が、関係官公庁等から交渉を受けたときは、遅滞なくその旨を調査職員に報告し協議するものとする。

第 15 節 地元関係者との交渉

1. 契約書第 12 条に定める地元関係者への説明、交渉等は、発注者又は調査職員が行うものとするが、調査職員の指示がある場合は、受注者はこれに協力するものとする。これらの交渉に当たり、受注者は地元関係者に誠意を持って接しなければならない。
2. 受注者は、屋外で行う設計業務等の実施に当たっては、地元関係者からの質問、疑義に関する説明等を求められた場合は、調査職員の承諾を得てから行うものとし、地元関係者との間に紛争が生じないように努めなければならない。
3. 受注者は、設計図書の定め、あるいは調査職員の指示により受注者が行うべき地元関係者への説明、交渉等を行う場合には、交渉等の内容を書面で随時、調査職員に報告し、指示があればそれに従うものとする。
4. 受注者は、設計業務等の実施中に発注者が地元協議等を行い、その結果を設計条件として業務を実施する場合には、設計図書に定めるところにより、地元協議等に立会するとともに、説明資料及び記録の作成を行うものとする。
5. 受注者は、前項の地元協議により、既に作成した成果の内容を変更する必要性が生じた場合には、指示に基づいて、変更するものとする。
なお、変更に要する期間及び経費は、発注者と協議のうえ定めるものとする。

第 16 節 土地への立入等

1. 受注者は、屋外で行う設計業務等を実施するため国有地、公有地又は私有地に立入る場合は、契約書の第 13 条の定めに従って、調査職員及び関係者と十分な協調を保ち設計業務等が円滑に進捗するように努めなければならない。
なお、やむを得ない理由により現地への立入りが不可能となった場合には、ただちに調査職員に報告し指示を受けなければならない。
2. 受注者は、設計業務等実施のため植物伐採、かき、さく等の除去又は土地もしくはは工作物を一時使用する時は、あらかじめ調査職員に報告するものとし、報告を受けた調査職員は当該土地所有者及び占有者の許可を得るものとする。
なお、第三者の土地への立入りについて、当該土地占有者の許可は、発注者が得る者とするが、調査職員の指示がある場合は受注者はこれに協力しなければならない。
3. 受注者は、前項の場合において生じた損失のため必要となる経費の負担については、設計図書に示す外は調査職員と協議により定めるものとする。
4. 受注者は、第三者の土地への立入りに当たっては、あらかじめ身分証明書交付願を発注者に提出し身分証明書の交付を受け、現地立入りに際しては、これを常に携帯しなければならない。
なお、受注者は、立入り作業完了後 10 日以内に身分証明書を発注者に返却しなければならない。

第 17 節 成果物の提出

1. 受注者は、設計業務等が完了したときは、設計図書に示す成果品（設計図書で照査技術者による照査が定められた場合は照査報告書を含む。）を完成届とともに提出し、検査を受けるものとする。
2. 受注者は、設計図書に定めがある場合、又は調査職員が指示する場合で、同意した

場合は履行期間途中においても、成果品の部分引き渡しを行うものとする。

3. 受注者は、成果品において使用する計量単位は、国際単位（S I）とする。
4. 受注者は、「土木設計業務等の電子納品要領（案）（国土交通省）（以下「要領」という。）」に基づいて作成した電子データにより成果品を提出するものとする。
「要領」で特に記載がない項目については、調査職員と協議のうえ決定するものとする。
なお、電子納品に対応するための措置については「電子納品運用ガイドライン（案）【業務編】（国土交通省）」を参考にするものとする。

第 18 節 関連法令及び条例の遵守

受注者は、設計業務等の実施に当たっては、関連する関係諸法令及び条例等を遵守しなければならない。

第 19 節 検 査

1. 受注者は、契約書第 31 条第 1 項の規定に基づき、完成届を発注者に提出する際には、契約図書により義務付けられた資料の整備が全て完了し、調査職員に提出していただかなければならない。
2. 発注者は、設計業務等の検査に先立って受注者に対して書面をもって検査日を通知するものとする。この場合において受注者は、検査に必要な書類及び資料等を整備するとともに、屋外で行う検査においては、必要な人員及び機材を準備し、提供しなければならない。この場合検査に要する費用は受注者の負担とする。
3. 検査員は、調査職員及び管理技術者の立会の上、次の各号に掲げる検査を行うものとする。
 - (1) 設計業務等成果品の検査
 - (2) 設計業務等管理状況の検査設計業務等の状況について、書類、記録及び写真等により検査を行う。
なお、電子納品の検査時の対応については「電子納品運用ガイドライン（案）【業務編】（国土交通省）」を参考にするものとする。

第 20 節 修 補

1. 受注者は、修補は速やかに行わなければならない。
2. 検査員は、修補の必要があると認めた場合には、受注者に対して期限を定めて修補を指示することができるものとする。
3. 検査員が修補を指示した場合において、修補の完了の確認は検査員の指示に従うものとする。
4. 検査員が指示した期間内に修補が完了しなかった場合には、発注者は、契約書第 31 条第 2 項の規定に基づき検査の結果を受注者に通知するものとする。

第 21 節 条件変更等

1. 契約書第 18 条第 1 項第 5 号に規定する「予期することのできない特別な状態」とは、契約書第 29 条第 1 項に規定する天災その他の不可抗力による場合のほか、発注者と受注者が協議し当該規程に適合すると判断した場合とする。
2. 調査職員が、受注者に対して契約書第 18 条、第 19 条及び第 21 条の規定に基づく設計図書の変更又は訂正の指示を行う場合は、指示書によるものとする。

第 22 節 契約変更

1. 発注者は、次に各号に掲げる場合において、設計業務等請負契約の変更を行うものとする。

- (1) 業務内容の変更により請負代金額に変更を生じる場合
 - (2) 履行期間の変更を行う場合
 - (3) 調査職員と受注者が協議し、設計業務等施行上必要があると認められる場合
 - (4) 契約書第 30 条の規定に基づき請負代金額の変更を代える設計図書の変更を行った場合
2. 発注者は、前項の場合において、変更する契約図書を次の各号に基づき作成するものとする。
- (1) 第 1 章第 21 節の規程に基づき調査職員が受注者に指示した事項
 - (2) 設計業務等の一時中止に伴う増加費用及び履行期間の変更等決定済の事項
 - (3) その他発注者又は調査職員と受注者との協議で決定された事項

第 23 節 履行期間の変更

1. 発注者は、受注者に対して設計業務等の変更の指示を行う場合において履行期間変更協議の対象であるか否かを合わせて事前に通知しなければならない。
2. 発注者は、履行期間変更協議の対象であると確認された事項及び設計業務等の一時中止を指示した事項であっても残履行期間及び残業務量等から履行期間の変更が必要でないと判断した場合は、履行期間の変更を行わない旨の協議に代えることができるものとする。
3. 受注者は、契約書第 22 条の規定に基づき、履行期間の延長が必要と判断した場合には、履行期間の延長理由、必要とする延長日数の算定根拠、変更工程表その他必要な資料を発注者に提出しなければならない。
4. 契約書第 23 条に基づき、発注者の請求により履行期間を短縮した場合には、受注者は、速やかに業務工程表を修正し提出しなければならない。

第 24 節 一時中止

1. 契約書第 20 条第 1 項の規定により、次の各号に該当する場合において、発注者は、受注者に書面をもって通知し、必要と認める期間、設計業務等の全部又は一部を一時中止させるものとする。

なお、暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、地すべり、落盤、火災、騒乱、暴動その他自然的又は人為的な事象（以下「天災等」という。）による設計業務等の中断については、第 1 章第 33 節臨機の措置により、受注者は、適切に対応しなければならない。

 - (1) 第三者の土地への立入り許可が得られない場合
 - (2) 関連する他の業務等の進捗が遅れたため、設計業務等の続行を不相当と認めた場合
 - (3) 環境問題等の発生により設計業務等の続行が不相当又は不可能となった場合
 - (4) 天災等により設計業務等の対象箇所の状態が変動した場合
 - (5) 第三者及びその財産、受注者、使用人等並びに調査職員の安全確保のため必要があると認めた場合
 - (6) 前各号に掲げるものの他、発注者が必要と認めた場合
2. 発注者は、受注者が契約図書に違反し、又は調査職員の指示に従わない場合等、調査職員が必要と認めた場合には、設計業務等の全部又は一部の一時中止をさせることができるものとする。
3. 前 2 項の場合において、受注者は屋外で行う設計業務等の現場の保全については、調査職員の指示に従わなければならない。

第 25 節 発注者の賠償責任

発注者は、以下の各号に該当する場合、損害の賠償を行わなければならない。

- (1) 契約書第 27 条に規定する一般的損害、契約書第 28 条に規定する第三者に及ぼした損害について、発注者の責に帰すべき損害とされた場合
- (2) 発注者が契約に違反し、その違反により契約の履行が不可能となった場合

第 26 節 受注者の賠償責任等

受注者は、以下の各号に該当する場合、損害の賠償又は履行の追完を行わなければならない。

- (1) 契約書第 27 条に規定する一般的損害、契約書第 28 条に規定する第三者に及ぼした損害について、受注者の責に帰すべき損害とされた場合
- (2) 契約書第 40 条に規定する契約不適合責任として請求された場合
- (3) 受注者の責により損害が生じた場合

第 27 節 部分使用

1. 発注者は、次の各号に掲げる場合において、契約書第 33 条の規定に基づき、受注者に対して部分使用を請求することができるものとする。
 - (1) 別途設計業務等の使用に供する必要がある場合
 - (2) その他特に必要と認められた場合
2. 受注者は、部分使用に同意した場合は、部分使用同意書を発注者に提出するものとする。

第 28 節 下請負

1. 契約書第 7 条第 1 項に規定する「主たる部分」とは、次に掲げるものをいい、受注者はこれを下請負に付することはできない。
 - (1) 設計業務等における総合的企画、業務遂行管理、手法の決定及び技術的判断等
 - (2) 解析業務における手法の決定及び技術的判断
2. 契約書第 7 条第 3 項ただし書きに規定する「軽微な部分」は、コピー、ワープロ、印刷、製本、速記録の作成、翻訳、トレース、模型製作、計算処理（単純な電算処理に限る）、データ入力、アンケート票の配布、資料の収集・単純な集計、電子納品の作成補助、その他特記仕様書に定める事項とする。
3. 受注者は、第 1 項及び第 2 項に規定する業務以外を下請負に付するにあたっては、発注者の承諾を得なければならない。
4. 独立行政法人水資源機構会計規程第 63 条の規定に基づき契約の性質又は目的が競争を許さないとして随意契約により契約を締結した業務においては、発注者は、前項に規定する承諾の申請があったときは、原則として請負業務費の 3 分の 1 以内で申請がなされた場合に限り、承諾を行うものとする。

ただし、業務の性質上、これを超えることがやむを得ないと発注者が認めたときは、この限りではない。
5. 受注者は、設計業務等を下請負に付する場合、書面により協力者との契約関係を明確にしておくとともに、協力者に対し適切な指導、管理のもとに設計業務等を実施しなければならない。

なお、協力者は、機構の一般競争（指名競争）参加資格者である場合は、機構の指名停止期間中であってはならない。

第 29 節 成果物の使用等

1. 受注者は、契約書第 6 条第 5 項の定めに従い、発注者の承諾を得て単独で又は他の者と共同で、成果物を発表することができる。
2. 受注者は、著作権、特許権その他第三者の権利の対象となっている設計方法等の使

用に関し、設計図書に明示がなく、その費用負担を契約書第8条に基づき発注者に求める場合には、第三者と補償条件の交渉を行う前に発注者の承諾を得なければならない。

第30節 守秘義務

1. 受注者は、契約書第1条第5項の規定により、業務の実施過程で知り得た秘密を第三者に漏らしてはならない。
2. 受注者は、当該業務の結果（業務処理の過程において得られた記録等を含む）を他人に閲覧させ、複製させ、又は譲渡してはならない。ただし、あらかじめ発注者の書面による承諾を得たときはこの限りではない。
3. 受注者は、本業務に関して発注者から貸与された情報その他知り得た情報を第1章第10節に示す業務計画書の業務組織計画に記載される者以外には秘密とし、また、当該業務の遂行以外の目的に使用してはならない。
4. 受注者は、当該業務に関して発注者から貸与された情報、その他知り得た情報を当該業務の終了後においても他社に漏らしてはならない。
5. 取り扱う情報は、当該業務のみに使用し、他の目的には使用しないこと。また、発注者の許可なく複製しないこと。
6. 受注者は、当該業務完了時に、発注者への返却若しくは消去又は破棄を確実に行うこと。
7. 受注者は、当該業務の遂行において貸与された発注者の情報の外部への漏洩若しくは目的外利用が認められ又そのおそれがある場合には、これを速やかに発注者に報告するものとする。

第31節 個人情報の取り扱い

1. 基本的事項
受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務を処理するための個人情報の取り扱いに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）及び同施行令に基づき、個人情報の漏えい、滅失、改ざん又はき損の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。
2. 秘密の保持
受注者は、この契約による事務に関して知り得た情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。
この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。
3. 取得の制限
受注者は、この契約による事務を処理するために個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示しなければならない。
また、当該利用目的の達成に必要な範囲内で、適正かつ公正な手段で個人情報を取得しなければならない。
4. 利用及び提供の制限
受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するための利用目的以外の目的のために個人情報を自ら利用し、又は提供してはならない。
5. 複製等の禁止
受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するために発注者から提供を受けた個人情報が記録された資料等を複製し、又は複製してはならない。

6. 下請負の禁止

受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するための個人情報については自ら取り扱うものとし、第三者にその取り扱いを伴う事務を下請負してはならない。

7. 事案発生時における報告

受注者は、個人情報の漏えい等の事案が発生し、又は発生するおそれがあることを知ったときは、速やかに発注者に報告し、適切な措置を講じなければならない。

なお、発注者の指示があった場合はこれに従うものとする。

また、契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

8. 資料等の返却等

受注者は、この契約による事務を処理するために発注者から貸与され、又は受注者が収集し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等を、この契約の終了後又は解除後速やかに発注者に返却し、又は引き渡さなければならない。

ただし、発注者が、廃棄又は消去など別の方法を指示したときは、当該指示に従うものとする。

9. 管理の確認等

発注者は、受注者における個人情報の管理の状況について適時確認することができる。

また、発注者は必要と認めるときは、受注者に対し個人情報の取り扱い状況について報告を求め、又は検査することができる。

10. 管理体制の整備

受注者は、この契約による事務に係る個人情報の管理に関する責任者を特定するなど管理体制を定めなければならない。

11. 従事者への周知

受注者は、従事者に対し、在職中及び退職後においてもこの契約による事務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならないことなど、個人情報の保護に関して必要な事項を周知しなければならない。

第 32 節 安全等の確保

1. 受注者は、屋外で行う設計業務等の実施に際しては、設計業務等関係者だけでなく、付近住民、通行者、通行車両等の第三者の安全確保に努めなければならない。

2. 受注者は、特記仕様書に定めがある場合には所轄警察署、道路管理者、鉄道事業者、河川管理者、労働基準監督署等の関係者及び関係機関と緊密な連絡を取り、設計業務等実施中の安全を確保しなければならない。

3. 受注者は、屋外で行う設計業務等の実施に当たり、事故が発生しないよう使用人等に安全教育の徹底を図り、指導、監督に努めなければならない。

4. 受注者は、屋外で行う設計業務等の実施にあたっては安全の確保に努めるとともに、労働安全衛生法等関係法令に基づく措置を講じておくものとする。

5. 受注者は、屋外で行う設計業務等の実施にあたり、災害予防のため、次の各号に掲げる事項を厳守しなければならない。

(1) 屋外で行う設計業務等に伴い伐採した立木等を焼却する場合には、関係法令を遵守するとともに、関係官公署の指導に従い必要な措置を講じなければならない。

(2) 受注者は、喫煙等の場所を指定し、指定場所以外での火気の使用を禁止しなければならない。

(3) 受注者は、ガソリン、塗料等の可燃物を使用する必要がある場合には、周辺に火気の使用を禁止する旨の標示を行い、周辺の整理に努めなければならない。

6. 受注者は、爆発物等の危険物を使用する必要がある場合には、関係法令を遵守するとともに、関係官公署の指示に従い、爆発等の防止の措置を講じなければならない。
7. 受注者は、屋外で行う設計業務等の実施にあたっては豪雨、豪雪、出水、地震、落雷等の自然災害に対して、常に被害を最小限に食い止めるための防災体制を確立しておかなければならない。災害発生時においては第三者及び使用人等の安全確保に努めなければならない。
8. 受注者は、屋外で行う設計業務等実施中に事故等が発生した場合は、直ちに調査職員に報告するとともに、調査職員が指示する様式により事故報告書を速やかに調査職員に提出し、調査職員から指示がある場合にはその指示に従わなければならない。

第 33 節 臨機の措置

1. 受注者は、災害防止等のため必要があると認めるときは、臨機の措置をとらなければならない。
また、受注者は、措置をとった場合には、その内容を速やかに調査職員に報告しなければならない。
2. 調査職員は、天災等に伴い成果物の品質および履行期間の遵守に重大な影響があると認められるときは、受注者に対して臨機の措置をとることを請求することができるものとする。

第 34 節 履行報告

受注者は、契約書第 15 条の規定に基づき、履行状況報告を作成し、調査職員に提出しなければならない。

第 35 節 屋外で作業を行う時期及び時間の変更

1. 受注者は、設計図書に屋外で作業を行う期日及び時間が定められている場合でその時間を変更する必要がある場合は、あらかじめ調査職員と協議するものとする。
2. 受注者は、設計図書に屋外で作業を行う期日及び時間が定められていない場合で、官公庁の休日又は夜間に作業を行う場合は、事前に理由を付した書面によって調査職員に提出しなければならない。

第 36 節 情報流出防止対策の強化

1. 受注者は、本業務の履行に関する全ての機構の情報について適切な流出防止対策をとらなければならない。
2. 受注者は、以下の業務における情報流出防止対策の基本的事項を遵守しなければならない。

(関係法令等の遵守)

機構の情報の取り扱いについては、関係法令を遵守するほか、本規定及び発注者の指示する事項を遵守するものとする。

(情報の目的外使用の禁止)

受注者は、発注者の許可無く本業務の履行に関して取り扱う機構の情報を本業務の目的以外に使用してはならない。

(社員等に対する指導)

- 1) 受注者は、受注者の社員、短時間特別社員、特別臨時作業員、臨時雇い、嘱託及び派遣労働者並びに取締役、相談役及び顧問、その他全ての従業員（以下「社員等」という。）に対し機構の情報の流出防止対策について、周知徹底を図るものとする。
- 2) 受注者は、社員等の退職後においても機構の情報の流出防止対策を徹底させるものとする。

3) 受注者は、発注者が下請負を認めた業務について下請負をする場合には、下請負先業者に対し本規定に準じた機構の情報の流出防止対策に関する確認を行うこと。

(契約終了時における機構の情報の返却)

受注者は、本業務の履行に関し発注者から提供を受けた機構の情報（発注者の許可を得て複製した機構の情報を含む。以下同じ。）については、本業務の実施完了後又は本業務の実施途中において発注者から返還を求められた場合、速やかに直接発注者に返却するものとする。本業務の実施において付加、変更、作成した機構の情報についても同様とする。

(電子情報の管理体制の確保)

1) 受注者は、電子情報を適正に管理し、かつ、責務を負う者（以下「情報管理責任者」という。）を選任及び配置するものとする。

2) 受注者は次の事項に関する電子情報の管理体制を確保しなければならない。

イ 本業務で使用するパソコン等のハード及びソフトに関するセキュリティ対策

ロ 電子情報の保存等に関するセキュリティ対策

ハ 電子情報を移送する際のセキュリティ対策

(電子情報の取り扱いに関するセキュリティの確保)

受注者は、本業務の実施に際し、情報流出の原因につながる以下の行為をしてはならない。

イ 情報管理責任者が使用することを認めたパソコン以外の使用

ロ セキュリティ対策の施されていないパソコンの使用

ハ セキュリティ対策を施さない形式での重要情報の保存

ニ セキュリティ機能のない電磁的記録媒体を使用した重要情報の移送

ホ 情報管理責任者の許可を得ない重要情報の移送

(事故の発生時の措置)

1) 受注者は、本業務の履行に関して取り扱う機構の情報について何らかの事由により情報流出事故にあった場合には、速やかに発注者に届け出るものとする。

2) この場合において、速やかに、事故の原因を明確にし、セキュリティ上の補完措置をとり、事故の再発防止の措置を講ずるものとする。

3. 発注者は、受注者の機構の情報の管理体制等について、必要に応じ、報告を求め、検査確認を行う場合がある。

第 37 節 支給品及び貸与品等

1. 受注者は、発注者から支給品及び貸与品の提供を受けた場合は、契約書第 16 条第 2 項の規定に基づき、引渡しの日から 7 日以内に支給・貸与物品受領書を所定の様式に基づき作成し調査職員に提出するものとし、契約書第 16 条第 3 項の規定に基づき善良な管理者の注意をもって管理しなければならない。

2. 受注者は、支給品及び貸与品の受払状況を記録した支給材料・貸与品受払記録簿を所定の様式に基づき作成し備え付け、常にその残高を明らかにしておかなければならない。

3. 受注者は、業務完了時に（完了前に業務工程上、支給品の精算が可能な場合は、その時点。）に、支給品精算書を所定の様式に基づき作成し、調査職員に提出しなければならない。

4. 受注者は、貸与機械の使用にあたっては、別に定める工事用機械貸与基準によらなければならない。

5. 受注者は、契約書第 16 条第 1 項の規定に基づき、支給品及び貸与品の支給を受ける

場合、品名、数量、品質、規格又は性能を記した要求書をその使用予定日の 14 日前までに調査職員に提出しなければならない。

6. 契約書第 16 条第 1 項に規定する「引渡場所」は、設計図書又は調査職員の指示によるものとする。
 7. 受注者は、契約書第 16 条第 4 項「不用となった貸与品等の返還」の規定に基づき返還する場合、調査職員の指示に従うものとする。
- なお、受注者は、返還が完了するまで材料の損失に対する責任を免れることはできないものとする。
8. 受注者は、支給品及び貸与品の修理等を行う場合、事前に調査職員の承諾を得なければならない。
 9. 受注者は、支給品及び貸与品を他の業務に流用してはならない。
 10. 支給品及び貸与品の所有権は、受注者が管理する場合でも発注者に属するものである。

第 38 節 暴力団員等による不当介入を受けた場合の措置

1. 受注者は、暴力団員等による不当介入を受けた場合は、断固としてこれを拒否すること。また、不当介入を受けた時点で速やかに警察に通報するとともに、捜査上必要な協力を行うこと。下請負人等が不当介入を受けたことを認知した場合も同様とする。
2. 1. により警察に通報又は捜査上必要な協力を行った場合は、速やかにその内容を記載した書面により発注者に報告すること。
3. 1. 及び 2. の行為を怠ったことが確認された場合は、指名停止等の措置を講じることがある。
4. 暴力団員等による不当介入を受けたことにより工程に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、発注者と協議しなければならない。

第 39 節 保険加入の義務

1. 受注者は、雇用保険法、労働者災害補償保険法、健康保険法及び厚生年金保険法の規定により、雇用者等の雇用形態に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。
2. 受注者は、現場作業が発生する場合は、法定外の労災保険に付さなければならない。

第2章 設計業務等一般

第1節 使用する技術基準等

受注者は、設計業務等の実施にあたって、最新の技術基準及び参考図書並びに特記仕様書に基づいて行うものとする。

なお、使用にあたっては、事前に調査職員の承諾を得なければならない。

第2節 現地踏査

受注者は、設計業務等の実施にあたり、現地踏査を行い設計等に必要な現地の状況を把握するものとする。

第3節 設計業務等の種類

1. 設計業務等とは、調査業務、計画業務、設計業務をいう。
2. この共通仕様書で規定する設計業務等は、新たに設ける各種施設物を対象とするが、供用後における改築又は修繕が必要となる各種施設物についても、これを準用するものとする。

第4節 調査業務の内容

調査業務とは、第2章第2節の現地踏査、文献等の資料収集、現地における観測・測定等の内で、特記仕様書に示された項目を調査し、その結果の取りまとめを行うことをいう。

なお、同一の業務として、この調査結果を基にして解析及び検討を行うことについても、これを調査業務とする。

第5節 計画業務の内容

計画業務とは、第1章第13節に定める貸与資料及び第2章第1節に定める適用基準等及び設計図書等を用いて解析、検討を行い、各種計画の立案を行うことをいう。

なお、同一の業務として解析、検討を行うための資料収集等を行うことについても、これを計画業務とする。

第6節 設計業務の内容

1. 設計業務とは、第1章第13節に定める貸与資料及び第2章第1節に定める適用基準等及び設計図書等を用いて、原則として基本計画、概略設計、予備設計あるいは詳細設計を行うことをいう。
2. 基本計画とは、設計の同一業務として設計対象となる各種施設物の基礎的諸元を設定するものをいう。
3. 概略設計とは、地形図、地質資料、現地踏査結果、文献及び設計条件等に基づき目的構造物の比較案または最適案を提案するものをいう。
4. 予備設計とは、空中写真図又は実測図、地質資料、現地踏査結果、文献、概略設計等の成果品及び設計条件に基づき、目的構造物の比較案について技術的、社会的、経済的な側面からの評価、検討を加え、最適案を選定した上で、平面図、縦横断面図、構造物の一般図、計画概要書、概略数量計算書、概算工事費等を作成するものをいう。
なお、同一の業務として目的構造物の比較案を提案することについてもこれを、予備設計とする。
5. 詳細設計とは、実測平面図（空中写真図を含む）、縦横断面図、予備設計等の成果品、地質資料、現地踏査結果及び設計条件等に基づき工事発注に必要な平面図、縦横断面図、構造物等の詳細設計図、設計計算書、工種別数量計算書、施工計画書等を作

成するものをいう。

第7節 調査業務の条件

1. 受注者は、調査業務の着手にあたり、第1章第13節に定める貸与資料、第2章第1節に定める適用基準等及び設計図書を基に調査条件を確認する。受注者は、これらの図書等に示されていない調査条件を設定する必要がある場合は、事前に調査職員の指示または承諾を受けなければならない。
2. 受注者は、現地踏査あるいは資料収集を実施する場合に、第1章第13節に定める貸与資料等及び設計図書に示す調査事項と照合して、現地踏査による調査対象項目あるいは資料収集対象項目を整理し、調査職員の承諾を得るものとする。
3. 受注者は、本節第2項に基づき作業した結果と、第1章第13節の貸与資料と相違する事項が生じた場合に、調査対象項目あるいは資料収集対象項目を調査職員と協議するものとする。
4. 受注者は、設計図書及び第2章第1節に定める諸基準等によりに示された以外の解析方法等を用いる場合に、使用する理論、公式等について、その理由を付して調査職員の承諾を得るものとする。

第8節 計画業務の条件

1. 受注者は、計画業務の着手にあたり、第1章第13節に定める貸与資料、第2章第1節に定める適用基準等及び設計図書を基に計画条件を確認する。受注者は、これらの図書等に示されていない計画条件を設定する必要がある場合は、事前に調査職員の指示または承諾を受けなければならない。
2. 受注者は、現地踏査あるいは資料収集を実施する場合に第1章第13節に定める貸与資料等及び設計図書に示す計画事項と照合して、現地踏査による調査対象項目あるいは資料収集対象項目を整理し、調査職員の承諾を得るものとする。
3. 受注者は、本節第2項に基づき作業を行った結果と、第1章第13節の貸与資料と相違する事項が生じた場合に、調査対象項目あるいは資料収集対象項目を調査職員と協議するものとする。
4. 受注者は、設計図書及び第2章第1節に定める諸基準等によりに示された以外の解析方法等を用いる場合に、使用する理論、公式等について、その理由を付して調査職員の承諾を得るものとする。

第9節 設計業務の条件

1. 受注者は、設計業務の着手にあたり、第1章第13節に定める貸与資料、第2章第1節に定める適用基準等及び設計図書を基に設計条件を設定し、調査職員の承諾を得るものとする。
また、受注者は、これらの図書等に示されていない設計条件を設定する必要がある場合は、事前に調査職員の指示または承諾を受けなければならない。
2. 受注者は、現地踏査あるいは資料収集を実施する場合に、第1章第13節に定める貸与資料等及び設計図書に示す設計事項と照合して、現地踏査による調査対象項目あるいは資料収集対象項目を整理し、調査職員の承諾を得るものとする。
3. 受注者は、本節第2項において、第1章第13節の貸与資料と相違する事項が生じた場合に、調査対象項目あるいは資料収集対象項目を調査職員と協議するものとする。
4. 受注者は、設計図書及び第2章第1節に定める適用基準等によりに示された以外の解析方法等を用いる場合に、使用する理論、公式等について、その理由を付して調査職員の承諾を得るものとする。
5. 受注者は、設計に当たって特許工法等特殊な工法を使用する場合には、調査職員の

承諾を得るものとする。

6. 設計に採用する材料、製品は原則として JIS、JAS の規格品及びこれと同等品以上のものとする。

7. 設計において、土木構造物標準設計図集（建設省（国土交通省））に集録されている構造物については、発注者は、採用構造物名の呼び名を設計図書に明示し、受注者はこれを遵守するものとする。

なお、これらに定められた数量計算は単位当たり数量をもととして行うものとする。

8. 受注者は、設計計算書の計算に使用した理論、公式の引用、文献等並びにその計算過程を明記するものとする。

9. 受注者は、設計にあたって 建設副産物の発生、抑制、再利用の促進等の視点を取り入れた設計を行うものとする。

また、建設副産物の検討成果として、リサイクル計画書を作成するものとする。

10. 電子計算機によって設計計算を行う場合は、プログラムと使用機種について事前に調査職員と協議するものとする。

11. 受注者は、概略設計又は予備設計を行った結果、後段階の設計において一層のコスト縮減の検討の余地が残されている場合は、最適案として選定された 1 ケースについてコスト縮減の観点より、形状、構造、使用材料、施工方法等について、後設計時に検討すべきコスト縮減提案を行うものとする。

この提案は概略設計又は予備設計を実施した受注者がその設計を通じて得た着目点・留意事項等（コスト縮減の観点から後設計時に一層の検討を行うべき事項）について、後設計を実施する技術者に情報を適切に引き継ぐためのものであり、本提案のために新たな計算等の作業を行う必要はない。

12. 受注者は、概略設計又は予備設計における比較案の提案、もしくは、概略設計における比較案を予備設計において評価、検討する場合には、新技術情報提供システム（NETIS）等を利用し、「推奨技術」「準推奨技術」「設計比較対象技術」「少実績優良技術」「活用促進技術」等有用な新技術・新工法を積極的に活用するための検討を行うものとする。

また、受注者は、詳細設計における工法等の選定においては、新技術情報提供システム（NETIS）等を利用し、「推奨技術」「準推奨技術」「設計比較対象技術」「少実績優良技術」「活用促進技術」等有用な新技術・新工法を積極的に活用するための検討を行い、調査職員と協議のうえ、採用する工法等を決定した後に設計を行うものとする。

第 10 節 調査業務及び計画業務の成果

1. 調査業務及び計画業務の成果は、特記仕様書に定めのない限り第 2 編以降の各調査業務及び計画業務の内容を定めた各章の該当条文に定めたものとする。

2. 受注者は、業務報告書の作成にあたって、その検討・解析結果等を特記仕様書に定められた調査・計画項目に対応させて、その検討・解析等の課程と共にとりまとめるものとする。

3. 受注者は、現地調査を実施した場合には、現地の状況を示す写真と共にその結果をとりまとめることとする。

4. 受注者は、検討、解析に使用した理論、公式の引用、文献等並びにその計算過程を明記するものとする。

5. 受注者は、成果品の作成にあたって、成果品一覧表又は特記仕様書によるものとする。

第 11 節 設計業務の成果

成果の内容については、次の各号についてとりまとめるものとする。

(1) 設計業務成果概要書

設計業務成果概要書は、設計業務の条件、特に考慮した事項、コントロールポイント、検討内容、施工性、経済性、耐久性、美観、環境等の要件を的確に解説し取りまとめるものとする。

(2) 設計計算書等

計算項目は、この共通仕様書及び特記仕様書によるものとする。

(3) 設計図面

設計図面は、特記仕様書に示す方法により作成するものとする。

(4) 数量計算書

数量計算書は、「土木工事数量算出要領（案）」（国土交通省）により行うものとし、算出した結果は、「土木工事数量算出要領数量集計表（案）」（国土交通省）に基づき工種別、区間別に取りまとめるものとする。

なお、これに記載のないものは、特記仕様書又は調査職員が指示する方法により取りまとめるものとする。

また、概略設計及び予備設計については、特記仕様書に定めのある場合を除き、一般図等に基づいて概略数量を算出するものとする。

(5) 概算工事費

概算工事費は、調査職員と協議した単価と、前号ただし書きに従って算出した概略数量をもとに算定するものとする。

(6) 施工計画書

1) 施工計画書は、工事施工に当たって必要な次の事項の基本的内容を記載するものとする。

イ) 計画工程表

ロ) 使用機械

ハ) 施工方法

ニ) 施工管理

ホ) 仮設備計画

ヘ) 特記事項その他

2) 特殊な構造あるいは特殊な工法を採用したときは、施工上留意すべき点を特記事項として記載するものとする。

(7) 現地踏査結果

受注者は、現地踏査を実施した場合には、現地の状況を示す写真と共にその結果をとりまとめることとする。

第12節 環境配慮の条件

1. 受注者は、「循環型社会形成推進基本法」（平成12年6月法律第110号）に基づき、エコマテリアル（自然素材、リサイクル資材等）の使用をはじめ、現場発生材の積極的な利活用を検討し、調査職員と協議のうえ設計に反映させるものとする。

2. 受注者は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」（平成15年7月法律第119号）に基づき、物品使用の検討にあたっては環境への負荷が少ない環境物品等の採用を推進するものとする。

3. 受注者は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成23年8月法律第105号）に基づき、再生資源の十分な利用及び廃棄物の減量を図るなど適切な設計を行うものとする。

<参考資料>主要技術基準及び参考図書

H26.3 現在

	名 称	編集又は発行所名	発行年月
〔1〕 共 通			
1	国土交通省制定 土木構造物標準設計	全日本建設技術協会	—
2	土木製図基準[2009年改訂版]	土 木 学 会	H21. 2
3	水理公式集 平成 11 年版	土 木 学 会	H11. 11
4	J I S ハンドブック	日 本 規 格 協 会	最新版
5	土木工事安全施工技術指針 -平成 21 年 改訂版-	全日本建設技術協会	H22. 4
6	土木工事安全施工技術指針の解説 -平成 13 年改訂版-	全日本建設技術協会	H13. 12
7	建設工事公衆災害防止対策要綱の解説（土木工事編）	国土開発技術研究センター	H 5. 2
8	建設機械施工安全技術指針	国 土 交 通 省	H17. 3
9	移動式クレーン、杭打機等の支持地盤養生マニュアル	日本建設機械化協会	H12. 3
10	土木工事共通仕様書	国 土 交 通 省	H25. 4
11	地盤調査の方法と解説	地 盤 工 学 会	H16. 6
12	地盤材料試験の方法と解説（2分冊）	地 盤 工 学 会	H21. 11
13	地質・土質調査成果電子納品要領（案）	国 土 交 通 省	H20. 12
14	公共測量 作業規定の準則	国 土 交 通 省	H25. 3
15	公共測量 作業規定の準則 解説と運用	日 本 測 量 協 会	H24. 10
16	測量成果電子納品要領（案）	国 土 交 通 省	H20. 12
17	測地成果 2000 導入に伴う公共測量成果座標変換マニュアル	国 土 地 理 院	H19. 11
18	基本水準点の 2000 年度平均成果改訂に伴う公共水準点成果改訂マニュアル（案）	国 土 地 理 院	H13. 5
19	公共測量成果改定マニュアル	国 土 地 理 院	H24. 11
20	電子納品運用ガイドライン（案）【業務編】	国 土 交 通 省	H21. 6
21	電子納品運用ガイドライン（案）【測量編】	国 土 交 通 省	H21. 6
22	電子納品運用ガイドライン（案）【地質・土質調査編】	国 土 交 通 省	H22. 8
23	2012 年制定 コンクリート標準示方書【設計編】	土 木 学 会	H25. 3
24	2007 年制定 舗装標準示方書	土 木 学 会	H19. 3
25	2013 年制定 コンクリート標準示方書【ダムコンクリート編】	土 木 学 会	H25. 10
26	2013 年制定 コンクリート標準示方書【土木学会規準および関連基準】 + 【JIS 規格集】	土 木 学 会	H25. 11
27	2013 年制定 コンクリート標準示方書【維持管理編】	土 木 学 会	H25. 10
28	2012 年制定 コンクリート標準示方書【施工編】	土 木 学 会	H25. 3
29	2012 年制定 コンクリート標準示方書【基本原則編】	土 木 学 会	H25. 3
30	土木設計業務等の電子納品要領（案）	国 土 交 通 省	H20. 5
31	C A D 製図基準（案）	国 土 交 通 省	H20. 5
32	C A D 製図基準に関する運用ガイドライン（案）	国 土 交 通 省	H21. 6
33	デジタル写真管理情報基準（案）	国 土 交 通 省	H20. 5
34	ボーリング柱状図作成要領（案）解説書（改訂版）	日本建設情報総合センター	H11. 5

		-	
35	コンクリートライブラリー 66号 プレストレストコンクリート工法設計施工指針	土 木 学 会	H 3. 4
36	2006年制定 トンネル標準示方書 山岳工法・同解説	土 木 学 会	H18. 7

	名 称	編集又は発行所名	発行年月
37	2006年制定 トンネル標準示方書 シールド工法・同解説	土 木 学 会	H18. 7
38	2006年制定 トンネル標準示方書 開削工法・同解説	土 木 学 会	H18. 7
39	地中送電用深部立坑、洞道の調査・設計・施工・計測指針	日本トンネル技術協会	S57. 3
40	地中構造物の建設に伴う近接施工指針(改訂版)	日本トンネル技術協会	H11. 2
41	日本下水道協会規格 (JSWAS) シールド工食用標準セグメント (A-3, 4)	日本下水道協会	H13. 7
42	除雪・防雪ハンドブック(除雪編)、(防雪編)	日本建設機械化協会	H16.12
43	軟岩評価－調査・設計・施工への適用	土 木 学 会	H 4.11
44	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説 (JGS4101-2012)	地 盤 工 学 会	H24. 5
45	グラウンドアンカー施工のための手引書	日本アンカー協会	H15. 5
46	ジェットグラウト工法技術資料	日本ジェットグラウト協会	H23. 9
47	ジェットグラウト工法 (積算資料)	日本ジェットグラウト協会	H23. 9
48	大深度土留め設計・施工指針 (案)	先端建設技術センター	H 6.10
49	土木研究所資料 大規模地下構造物の耐震設計法、ガイドライン	建設省土木研究所	H 4. 3
50	薬液注入工法の設計施工指針	日本グラウト協会	平成元. 6
51	薬液注入工法設計資料	日本グラウト協会	毎年発行
52	薬液注入工法積算資料	日本グラウト協会	毎年発行
53	近接基礎設計施工要領 (案)	建設省土木研究所	S58. 6
54	煙・熱感知連動機構・装置等の設置及び維持に関する運用指針	日本火災報知器工業会	H19. 7
55	高圧受電設備規程	日本電気協会	H20. 9
56	防災設備に関する指針-電源と配線及び非常用の照明装置-2004年版	日本電設工業協会	H16. 9
57	昇降機設計・施工上の指導指針	日本建築設備・昇降機センター	H 7. 8
58	日本建設機械要覧 2010年版	日本建設機械化協会	H22. 3
59	建設工事に伴う騒音振動対策ハンドブック (第3版)	日本建設機械化協会	H13. 2
60	建設発生土利用技術マニュアル 第3版	土木研究センター	H16. 9
61	[新訂]建設副産物適正処理推進要綱の解説	建設副産物リサイクル 広報推進会議	H14.11
62	災害復旧工事の設計要領	全 国 防 災 協 会	毎年発行
63	製品仕様による数値地形図データ作成ガイドライン改訂版 (案)	国 土 地 理 院	H20. 3
64	基盤地図情報原型データベース地理空間データ製品仕様書(案)【数値地形図編】第2.1版	国 土 地 理 院	H21.10

65	地すべり観測便覧	斜面防災対策技術協会	H24. 5
66	地すべり対策技術設計実施要領 H19 年度版	斜面防災対策技術協会	H19. 11
67	猛禽類保護の進め方(特にイワシ・クマカ・オカについて)	日本鳥類保護連盟	H15. 7

	名 称	編集又は発行所名	発行年月
68	環境大気常時監視マニュアル第6版	環境省 水・大気環境局	H22. 3
69	騒音に係わる環境基準の評価マニュアルⅠ. 基本評価編	環 境 庁	H11. 6
70	騒音に係わる環境基準の評価マニュアルⅡ. 地域評価編(道路に面する地域)	環 境 庁	H12. 4
71	面的評価支援システム操作マニュアル(本編)Ver. 3.0	環境省 水・大気環境局	H23. 10
72	改訂解説・工作物設置許可基準	国土技術研究センター	H10. 11
73	地理空間データ製品仕様書作成マニュアルJPGIS Ver. 2.1	国 土 地 理 院	H21. 7
74	基準点測量製品仕様書(案)(詳細版)、(簡易版)	国 土 地 理 院	H24. 6
75	水準測量(新設・復旧)製品仕様書(案)(詳細版)、(簡易版)	国 土 地 理 院	H24. 6
76	水準測量(改測・地盤変動)製品仕様書(案)(詳細版)、(簡易版)	国 土 地 理 院	H24. 6
77	地図情報レベル 1000 データ作成の製品仕様書(案)第1.0版	国 土 地 理 院	H20. 3
78	写真地図作成の製品仕様書(案)	国 土 地 理 院	H24. 2
79	路線測量製品仕様書(案)	国 土 地 理 院	H24. 2
80	河川測量製品仕様書(案)	国 土 地 理 院	H24. 2
81	用地測量製品仕様書(案)	国 土 地 理 院	H24. 2
82	土木工事数量算出要領(案)	国 土 交 通 省	H25
83	土木工事数量算出要領 数量集計表様式(案)	国 土 交 通 省	H25
84	移動計測車両による測量システムを用いる数値地形図データ作成マニュアル(案)	国 土 地 理 院	H24. 5
85	GNSS 測量による標高の測量マニュアル(案)	国 土 地 理 院	H25. 4
86	電子基準点のみを既知点とした基準点測量マニュアル(案)	国 土 地 理 院	H25. 4
87	公共測量におけるセミ・ダイミック補正マニュアル	国 土 地 理 院	H25. 6
〔2〕河川・海岸・砂防・ダム関係			
1	建設省所管ダム事業環境影響評価技術指針	建 設 省	S60. 9
2	ダム事業における環境影響評価の考え方	ダム水源地環境整備センター	H12. 12
3	放水路事業における環境影響評価の考え方	リバーフロント整備センター	H13. 6
4	改訂河川計画業務ガイドライン	日 本 河 川 協 会	H 2. 4
5	河川砂防技術基準 調査編	国 土 交 通 省	H24. 6
6	国土交通省河川砂防技術基準 同解説 計画編	国 土 交 通 省	H17. 11
7	改訂新版 建設省河川砂防技術基準(案)設計編	日 本 河 川 協 会	H 9. 10

	(I ・ II)		
8	改訂 解説・河川管理施設等構造令	日 本 河 川 協 会	H12. 1
9	増補改訂（一部修正）版 防災調節池等技術基準 （案）解説と設計実例	日 本 河 川 協 会	H19. 9
10	流域貯留施設等技術指針（案）-増補改訂版-	雨水貯留浸透技術協 会	H19. 4
11	港湾の施設の技術上の基準・同解説	日 本 港 湾 協 会	H19. 9

	名 称	編集又は発行所名	発行年月
12	数字で見る港湾 2011	日 本 港 湾 協 会	H23. 7
13	水門鉄管技術基準 ・第5回改訂版（水門扉編）－付解説－ ・第5回改訂版（水圧鉄管・鉄鋼構造物、溶接・ 接合編）－付解説－ ・FRP（M）水圧管編	電 力 土 木 技 術 協 会	H19. 9 H19. 6 H22. 4
14	柔構造樋門設計の手引き	国土開発技術研究センタ ー	H10.12
15	河川土工マニュアル	国 土 技 術 研 究 セ ン タ ー	H21. 4
16	ダム・堰施設技術基準（案）（基準解説編・マニュアル 編）	国 土 交 通 省	H23. 7
17	水門・樋門ゲート設計要領（案）	ダ ム ・ 堰 施 設 技 術 協 会	H13.12
18	鋼製起伏ゲート設計要領（案）	ダ ム ・ 堰 施 設 技 術 協 会	H11.10
19	ゲート用開閉装置（機械式）設計要領（案）	ダ ム ・ 堰 施 設 技 術 協 会	H12. 8
20	ゲート用開閉装置（油圧式）設計要領（案）	ダ ム ・ 堰 施 設 技 術 協 会	H12. 6
21	防災調節池等技術基準（案）解説と設計実例 増補改訂（一部修正版）	日 本 河 川 協 会	H19. 9
22	揚排水ポンプ設備技術基準（案）同解説	河川ポンプ施設技術協 会	H13. 2
23	海岸保全施設の技術上の基準・同解説（複製版）	全 国 海 岸 協 会	H16. 6
24	海岸便覧	全 国 海 岸 協 会	H14. 3
25	（第2次改訂）ダム設計基準	日 本 大 ダ ム 会 議	S53. 8
26	仮締切堤設置基準（案）	国土交通省河川局治水 課	H22. 6
27	鋼矢板二重式仮締切設計マニュアル	国 土 技 術 研 究 セ ン タ ー	H13. 5
28	堤防余盛基準について	建 設 省 河 川 局 治 水 課	S44. 1
29	ダム基礎地質調査基準	日 本 大 ダ ム 会 議	S51. 3
30	ダム構造物管理基準 改訂	日 本 大 ダ ム 会 議	S61.11
31	水管橋設計基準	日 本 水 道 鋼 管 協 会	H11. 6
32	河川事業関係例規集	日 本 河 川 協 会	毎年発行
33	平成18年度版 河川水辺の国勢調査 基本調査マニュアル【河川版】	国土交通省水管理・国 土保全局河川環境課	H24. 3
34	平成18年度版 河川水辺の国勢調査 基本調査マニュアル【ダム湖版】	国土交通省水管理・国 土保全局河川環境課	H24. 3
35	河川関係法令例規集（加除式）	第 1 法 規	－

36	護岸の力学設計法 改訂	国土技術研究センター	H19. 11
37	海岸保全施設構造例集	全国海岸協会	S57. 3
38	漁港・漁場の施設の設計の手引 2003年版(上・下巻)	全国漁港漁場協会	H15. 10
39	ジャケット式鋼製護岸設計指針(案)	日本港湾協会	S52. 3
40	砂防関係法令例規集	全国治水砂防協会	毎年発行
41	河岸等の植樹基準(案)	建設省河川局治水課	H元. 4
42	砂防指定地実務ハンドブック	全国治水砂防協会	H13. 2
43	河川における樹木管理の手引き	リバーフロント整備センター	H11. 9

	名 称	編集又は発行所名	発行年月
44	都市河川計画の手引き(洪水防御計画編)	国土開発技術研究センター	H 5. 6
45	河川構造物設計業務ガイドライン(護岸設計業務)	国土開発技術研究センター	H 5. 10
46	河川構造物設計業務ガイドライン(樋門・樋管設計業務)	国土開発技術研究センター	H 8. 11
47	河川構造物設計業務ガイドライン(堰・床止め設計業務)	国土開発技術研究センター	H 8. 11
48	土木構造物設計マニュアル(案) -樋門編-	全日本建設技術協会	H14. 1
49	床止めの構造設計手引き	国土開発技術研究センター	H10. 12
50	海岸保全計画の手引き	全国海岸協会	H 6. 3
51	緩傾斜堤の設計の手引き 改訂版	全国海岸協会	H18. 1
52	人工リーフの設計の手引き	全国海岸協会	H16. 3
53	治水経済調査マニュアル(案)	国土交通省河川局	H17. 4
54	港湾調査指針(改訂)	日本港湾協会	S62. 6
55	面的な海岸防護方式の計画・設計マニュアル	日本港湾協会	H 3. 3
56	ビーチ計画・設計マニュアル(改訂版)	日本マリナビーチ協会	H17. 10
57	港湾環境整備施設技術マニュアル	沿岸開発技術研究センター	H 3. 3
58	農地防災事業便覧 平成10年度版	農地防災事業研究会	H11. 1
59	漁港計画の手引 平成4年度改訂版	全国漁港協会	H 4. 11
60	漁港海岸事業設計の手引 平成8年度版	全国漁港協会	H 8. 9
61	水と緑の溪流づくり調査	建設省河川局砂防部	H 3. 8
62	溪流環境整備計画策定マニュアル(案)	建設省河川局砂防部	H 6. 9
63	砂防における自然環境調査マニュアル(案)	建設省河川局砂防部	H 3. 1
64	改訂版 砂防設計公式集(マニュアル)	全国治水砂防協会	S59. 10
65	改訂 ダム貯水池水質調査要領	ダム水源地環境整備センター	H 8. 1
66	グラウチング技術指針・同解説	国土技術研究センター	H15. 7
67	鋼製砂防構造物設計便覧(平成21年版)	砂防・地すべり技術センター	H21. 9
68	総合土石流対策基本計画作成マニュアル(案)	総合土石流対策基本計画検討委員会	H元. 9

69	土石流危険渓流および土石流危険区域調査要領(案)	建設省河川局砂防部	H11. 4
70	新版 地すべり鋼管杭設計要領	斜面防災対策技術協会	H20. 5
71	新・斜面崩壊防止工事の設計と実例-急傾斜地崩壊防止工事技術指針-	全国治水砂防協会	H19. 9
72	ダム事業の手引き(平成元年度版)	ダム技術センター	H元. 4
73	フィルダムの耐震設計指針(案)	国土開発技術研究センター	H 3. 6
74	多目的ダムの建設	ダム技術センター	H17. 6
75	改訂3版 コンクリートダムの細部技術	ダム技術センター	H22. 8

	名 称	編集又は発行所名	発行年月
76	ルジオンテスト技術指針・同解説	国土技術研究センター	H18. 7
77	発電用水力設備の技術基準と官庁手続き(平成23年改訂版)	電気土木技術協会	H23. 3
78	ダムの地質調査	土 木 学 会	S62. 6
79	ダムの岩盤掘削	土 木 学 会	H 4. 4
80	原位置岩盤試験法の指針-平板載荷試験法- -せん断試験法--孔内載荷試験法-	土 木 学 会	H12.12
81	軟岩の調査・試験の指針(案)～1991年版～	土 木 学 会	H 4.12
82	河川定期縦横断データ作成ガイドライン	国土交通省河川局	H20. 5
83	河川景観の形成と保全の考え方	国土交通省河川局	H18.10
84	河川の景観形成に資する石積み構造物の整備に関する資料	国土交通省河川局河川環境課	H18. 8
85	多自然川づくりポイントブック 河川改修時の課題と留意点	リバーフロント整備センター	H19. 3
86	砂防関係事業における景観形成ガイドライン	国土交通省砂防部	H19. 2
87	海岸景観形成ガイドライン	国土交通省河川局・港湾局、農林水産省農村振興局、水産庁	H18. 1
88	美しい山河を守る災害復旧基本方針	国 土 交 通 省	H18. 6
89	河川水辺総括資料作成調査の手引き(案)	リバーフロント整備センター	H13. 8
90	河川水辺の国勢調査マニュアル(案)(河川空間利用実態調査編)	国 土 交 通 省	H16. 3
91	ダム湖利用実態調査 調査マニュアル(案)	建 設 省 河 川 局	—
92	試験湛水実施要領(案)	国 土 交 通 省	H11.10
93	台形CSGダム設計・施工・品質管理技術資料	ダム技術センター	H24. 6
94	改訂版 巡航RCD工法施工技術資料	ダム技術センター	H24. 2
95	貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)	国 土 交 通 省	H21. 7
96	活断層地形要素判読マニュアル	(独)土木研究所材料地盤研究グループ(地質) 他	H18. 3
97	正常流量検討の手引き(案)	国 土 交 通 省	H19. 9
98	洪水予測システムチェックリスト(案)	国土技術政策総合研	H22. 5

		究 所	
99	浸水想定区域作成マニュアル(改訂版)	国 土 交 通 省	H26. 1
100	浸水想定区域図データ電子化ガイドライン	国 土 交 通 省	H26. 1
101	砂防基本計画策定指針(土石流・流木対策編)解説	国土技術政策総合研 究 所	H19. 3
102	土石流・流木対策設計技術指針解説	国土技術政策総合研 究 所	H19. 3
103	多自然川づくりポイントブックⅡ 川の営力を活かした川づくり	リバーフロント整備 セ ン タ ー	H20. 8
104	多自然川づくりポイントブックⅢ 中小河川に関する河道計画の技術基準；解説	リバーフロント整備 セ ン タ ー	H23.10
〔3〕 道路関係			

	名 称	編集又は発行所名	発行年月
1	建設省所管道路事業影響評価技術指針	建 設 省	S60. 9
2	道路環境影響評価要覧〈1992年版〉	道 路 環 境 研 究 所	H 4. 9
3	道路構造令の解説と運用	日 本 道 路 協 会	H16. 2
4	第7次改訂 道路技術基準通達集-基準の変遷と通達-	ぎ ょ う せ い	H14. 3
5	林道規程－運用と解説－	日 本 林 道 協 会	H23. 9
6	全国道路・街路交通情勢調査(道路交通センサス)一般交通量調査実施要領 交通調査編(国土交通省)	国 土 交 通 省	－
7	全国道路街路交通情勢調査実施要綱自動車起終点調査(調査編)	国 土 交 通 省	－
8	全国道路街路交通情勢調査実施要綱 駐車場調査(調査編)	国 土 交 通 省	－
9	交通渋滞実態調査マニュアル	建設省土木研究所	H 2. 2
10	自転車道等の設計基準解説	日 本 道 路 協 会	S49.10
11	自転車道必携	自 転 車 道 路 協 会	S60. 3
12	自転車利用環境整備のためのキーポイント	日 本 道 路 協 会	H25. 6
13	交通工学ハンドブック 2008 DVD-ROM版	交 通 工 学 研 究 会	H20. 7
14	クロソイドポケットブック(改訂版)	日 本 道 路 協 会	S49. 8
15	道路の交通容量	日 本 道 路 協 会	S59. 9
16	道路の交通容量1985	交 通 工 学 研 究 会	S62. 2
17	HIGHWAY CAPACITY MANUAL	Transportation Research Board	2010
18	改訂 平面交差の計画と設計 基礎編 第3版	交 通 工 学 研 究 会	H19. 7
19	平面交差の計画と設計－応用編－2007	交 通 工 学 研 究 会	H19.10
20	路面標示設置マニュアル	交 通 工 学 研 究 会	H24. 1
21	交通工学実務双書第4巻 市街地道路の計画と設計	交 通 工 学 研 究 会	S63.12
22	生活道路のゾーン対策マニュアル	交 通 工 学 研 究 会	H23.12
23	道路環境影響評価の技術手法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 2007改訂版	道 路 環 境 研 究 所	H19. 9

24	道路土工要綱	日本道路協会	H21. 6
25	道路土工一切土工・斜面安定工指針(平成21年度版)	日本道路協会	H21. 6
26	道路土工盛土工指針(平成22年度版)	日本道路協会	H22. 4
27	道路土工軟弱地盤対策工指針(平成24年度版)	日本道路協会	H24. 8
28	道路土工仮設構造物工指針	日本道路協会	H11. 3
29	道路土工擁壁工指針(平成24年度版)	日本道路協会	H24. 7
30	道路土工カルバート工指針(平成21年度版)	日本道路協会	H22. 3
31	多数アンカー式補強土壁工法設計・施工マニュアル第3版	土木研究センター	H14.10
32	補強土(テールアルメ)壁工法設計・施工マニュアル 第3回改訂版	土木研究センター	H15.11
33	ジオテキスタイルを用いた補強土の設計・施工マニュアル 改訂版	土木研究センター	H12. 2

	名 称	編集又は発行所名	発行年月
34	プレキャストボックスカルバート設計・施工マニュアル (鉄筋コンクリート製・プレストレストコンクリート製)	全国ボックスカルバート協会	H23. 3
35	下水道用強化プラスチック複合管道路埋設指針 (平成11年改訂)	強化プラスチック複合管協会	H11. 3
36	下水道用セラミックパイプ(陶管)道路埋設指針 (平成11年改訂)	全国セラミックパイプ工業組合	H11. 3
37	下水道用硬質塩化ビニル管道路埋設指針	塩化ビニル管継手協会	H11. 3
38	PCボックスカルバート道路埋設指針(改訂版)	日本PCボックスカルバート製品協会	H 3.10
39	のり枠工の設計・施工指針	全国特定法面保護協会	H18.11
40	道路橋示方書・同解説 (I 共通編・II 鋼橋編)	日本道路協会	H24. 3
41	道路橋示方書・同解説 (I 共通編・III コンクリート橋編)	日本道路協会	H24. 3
42	道路橋示方書・同解説 (I 共通編・IV 下部構造編)	日本道路協会	H24. 3
43	道路橋示方書・同解説 (V 耐震設計編)	日本道路協会	H24. 3
44	鋼道路橋の疲労設計指針	日本道路協会	H14. 3
45	鋼道路橋設計便覧	日本道路協会	S55. 8
46	鋼道路橋施工便覧	日本道路協会	S60. 2
47	道路橋耐風設計便覧	日本道路協会	H20. 1
48	杭基礎設計便覧(改訂版)	日本道路協会	H19. 1
49	杭基礎施工便覧(改訂版)	日本道路協会	H19. 1
50	鋼管矢板基礎設計施工便覧	日本道路協会	H 9.12
51	斜面上の深礎基礎設計施工便覧	日本道路協会	H24. 4
52	立体横断施設技術基準・同解説	日本道路協会	S54. 1
53	コンクリート道路橋設計便覧	日本道路協会	H 6. 2
54	コンクリート道路橋施工便覧	日本道路協会	H10. 1
55	プレキャストブロック工法によるプレストレストコンクリートTげた道路橋設計・施工指針	日本道路協会	H 4.10
56	道路橋支承標準設計(ゴム支承・ころがり支承編)	日本道路協会	H 5. 4

57	道路橋支承標準設計（すべり支承編）	日本道路協会	H 5. 5
58	道路橋伸縮装置便覧	日本道路協会	S45. 11
59	道路橋支承便覧	日本道路協会	H16. 4
60	鋼道路橋塗装・防食便覧	日本道路協会	H17. 12
61	鋼道路橋塗装便覧別冊資料－塗膜劣化程度標準写真帳	日本道路協会	H 2. 6
62	鋼橋の疲労	日本道路協会	H 9. 5
63	道路橋補修便覧	日本道路協会	S54. 2
64	鋼道路橋の細部構造に関する資料集	日本道路協会	H 3. 7
65	小規模吊橋指針・同解説	日本道路協会	S59. 4
66	道路橋の塩害対策指針（案）・同解説	日本道路協会	S59. 2
67	道路橋床版防水便覧	日本道路協会	H19. 3
68	道路橋鉄筋コンクリート床版防水層設計施工資料	日本道路協会	S62. 1
69	鋼構造架設設計施工指針[2001年版]	土木学会	H14. 4
70	美しい橋のデザインマニュアル第1集	土木学会	H 5. 3
71	美しい橋のデザインマニュアル第2集	土木学会	H 5. 7

	名 称	編集又は発行所名	発行年月
72	橋の美Ⅰ－道路橋景観便覧 橋の美Ⅱ－道路橋景観便覧 橋の美Ⅲ－橋梁デザインノート	日本道路協会	S52. 7 S56. 6 H 4. 5
73	道路トンネル技術基準（換気編）・同解説 平成20年改訂版	日本道路協会	H20. 10
74	道路トンネル技術基準（構造編）・同解説	日本道路協会	H15. 11
75	道路トンネル非常用施設設置基準・同解説	日本道路協会	H13. 10
76	道路トンネル維持管理便覧	日本道路協会	H 5. 11
77	道路トンネル観察・計測指針 平成21年改訂版	日本道路協会	H21. 2
78	道路トンネル安全施工技術指針	日本道路協会	H 8. 10
79	トンネル設計・施工指針	日本道路協会	H21. 2
80	舗装の構造に関する技術基準・同解説	日本道路協会	H13. 9
81	舗装設計施工指針 平成18年版	日本道路協会	H18. 2
82	排水性舗装技術指針（案）	日本道路協会	H 8. 11
83	転圧コンクリート舗装技術指針（案）	日本道路協会	H 2. 11
84	アスファルト舗装工事共通仕様書解説（改訂版）	日本道路協会	H 4. 12
85	舗装設計便覧 平成18年版	日本道路協会	H18. 2
86	舗装施工便覧 平成18年版	日本道路協会	H18. 2
87	アスファルト混合所便覧（平成8年版）	日本道路協会	H 8. 10
88	舗装再生便覧 平成22年版	日本道路協会	H22. 11
89	砂利道の瀝青路面処理指針	日本アスファルト協会	S59. 9
90	フルデプス・アスファルト舗装設計施工指針（案）	日本アスファルト協会	S61. 9
91	高炉スラグ路盤設計施工指針	鐵鋼スラグ協会	S57. 6
92	製鋼スラグを用いたアスファルト舗装設計施工指針	鐵鋼スラグ協会	S57. 7
93	製鋼スラグ路盤設計施工指針	鐵鋼スラグ協会	S60. 9
94	インターロッキングブロック舗装設計施工要領	インターロッキングブロック舗装技術協会	H19. 3

95	設計要領第一集 舗装編	N E X C O	H24. 7
96	構内舗装・排水設計基準及び同解説 平成 13 年版	公 共 建 築 協 会	H13. 4
97	併用軌道構造設計指針	日 本 道 路 協 会	S37. 5
98	路上再生路盤工法技術指針 (案)	日 本 道 路 協 会	S62. 1
99	路上表層再生工法技術指針 (案)	日 本 道 路 協 会	S63.11
100	道路維持修繕要綱 (改訂版)	日 本 道 路 協 会	S53. 7
101	舗装調査・試験法便覧(全4分冊)	日 本 道 路 協 会	H22. 1
102	道路震災対策便覧 (震災対策編) 平成 18 年度改訂版	日 本 道 路 協 会	H18. 9
103	道路震災対策便覧 (震災復旧編) 平成 18 年度改訂版	日 本 道 路 協 会	H19. 3
104	道路震災対策便覧 (震災危機管理編)	日 本 道 路 協 会	H23. 1
105	落石対策便覧	日 本 道 路 協 会	H12. 6
106	道路緑化技術基準・同解説	日 本 道 路 協 会	S63.12
107	道路防雪便覧	日 本 道 路 協 会	H 2. 5
108	共同溝設計指針	日 本 道 路 協 会	S61. 3
109	プレキャストコンクリート共同溝設計・施工要領(案)	道 路 保 全 技 術 セ ン タ ー	H 6. 3
110	共同溝耐震設計要領(案)	建 設 省 土 木 研 究 所	S59.10

	名 称	編集又は発行所名	発行年月
111	キャブシステム技術マニュアル (案) 解説	開 発 問 題 研 究 所	H 5. 8
112	防護柵の設置基準・同解説	日 本 道 路 協 会	H20. 1
113	車両用防護柵標準仕様・同解説	日 本 道 路 協 会	H16. 3
114	道路標識設置基準・同解説	日 本 道 路 協 会	S62. 1
115	視線誘導標設置基準・同解説	日 本 道 路 協 会	S59.10
116	道路照明施設設置基準・同解説	日 本 道 路 協 会	H19.10
117	道路・トンネル照明器材仕様書	建 設 電 気 技 術 協 会	H20. 8
118	LED 道路・トンネル照明導入ガイドライン(案)	国 土 交 通 省	H23. 9
119	道路反射鏡設置指針	日 本 道 路 協 会	S55.12
120	視覚障害者誘導用ブロック設置指針・同解説	日 本 道 路 協 会	S60. 9
121	道路標識ハンドブック(2004年版)	全 国 道 路 標 識 ・ 標 示 業 協 会 編	H16. 8
122	路面標示ハンドブック	全 国 道 路 標 識 ・ 標 示 業 協 会 編	H13.12
123	駐車場設計・施工指針 同解説	日 本 道 路 協 会	H 4.11
124	料金徴収施設設置基準 (案) ・同解説	日 本 道 路 協 会	H11. 9
125	道路のデザイン 道路デザイン指針 (案) とその解説	道 路 環 境 研 究 所	H17. 7
126	平成 21 年度道路環境センサ調査要領	道 路 局 地 方 環 境 課 、 国 土 技 術 政 策 総 合 研 究 所	H21. 6
127	路上自転車・自動二輪車等駐車場設置指針・同解説	日 本 道 路 協 会	H19. 1
128	道路防災総点検要領[豪雨・豪雪等]	道 路 保 全 技 術 セ ン タ ー	H 8. 8

129	道路防災総点検要領[地震]	道路保全技術センター	H 8. 8
130	防災カルテ作成・運用要領	道路保全技術センター	H 8.12
131	道路防災点検の手引[豪雨・豪雪等]	道路保全技術センター	H19. 9
132	橋梁の維持管理の体系と橋梁管理カルテ作成要領(案)	国土交通省道路局国道・防災課	H16. 3
133	橋梁定期点検要領(案)	国土交通省道路局国道・防災課	H16. 3
134	橋梁における第三者被害予防措置要領(案)	国土交通省道路局国道・防災課	H16. 3
135	ずい道等建築工事における換気技術指針	建設業労働災害防止協会	H24. 3
136	道路管理施設等設計指針(案)・道路管理施設等設計要領(案)	日本建設機械化協会	H15. 7
[4] 電気・機械・設備等			
1	日本電機工業会 (J E M) 規格	日本電機工業会	—
2	解説 電気設備の技術基準 最終改正	経済産業省原子力安全・保安院	H25.10
3	内線規程 JEAC 8001-2011	日本電気協会	H24. 2
4	電気通信設備工事共通仕様書 平成 25 年版	国土交通省	H25. 3
5	電気通信設備施工管理の手引き 平成 25 年版	国土交通省	H25.11
6	建築設備設計基準 平成 21 年版	国土交通省	H21. 3

	名 称	編集又は発行所名	発行年月
7	公共建築工事標準仕様書[建築工事編] 平成 25 年版	国土交通省	H25. 3
8	公共建築設備工事標準図[電気設備工事編] 平成 25 年版	国土交通省	H25. 3
9	公共建築設備工事標準図[機械設備工事編] 平成 25 年版	国土交通省	H25. 3
10	電気設備工事監理指針	国土交通省	H25
11	電気通信設備工事費積算のための工事数量とりまとめ要領	国土交通省	H12
12	通信鉄塔設計要領・同解説	国土交通省	H25. 3
13	通信鉄塔・局舎耐震診断基準(案)・同解説	国土交通省	H25. 3
14	光ファイバーケーブル施工要領・同解説	国土交通省	H25. 3
15	電気通信施設設計要領・同解説(電気編)	国土交通省	H20
16	雷害対策設計施工要領(案)・同解説	国土交通省	H18.11
17	電気通信施設劣化診断要領・同解説(電力設備編)	国土交通省	H18.11

注意：最新版を使用するものとする。